

又は到る處の風土人情宗教といふ點より、又更に悟る處ありて、自覺の念を高めたのである。歐米に比較した日本國は、水彩畫國であると信ずるのである。迂愚も不願して聊か所感を述ぶ讀者幸に高見を寄せて余の愚説に訂正を給はらば余にとりては眞に無上の光榮である。(完)

『春の雪』説明

ト、〇、生

圖は小石川江戸川の所見て船と雪との關係が面白く思はれたので羅紗紙へ描いて見たのである地平線を高くしたのは土手の上から見下した故て又船のある方の堤の上が複雑で却て邪覽になるからである且かくすれば河の幅も廣く見える事が出来る色は枯葉の黄なる土の赭き等まだ澤山の色が見えたとこのやうな圖案的な繪には簡潔を尙ぶものであるから僅に若草の緑と船や樹の幹の暗き紫との二色を用ひたに過ぎぬ描寫の順序は色紙の上に輪廓をとつて初めにホワイトにて雪を描き乾いて後草次に船や棧橋樹幹に及ぼすので緑はレモンエローにエメラルドグリーンを混ぜ丹や幹にはインヂアンレッドにオルトラマリンを混ぜて暗紫

色を作つたのである

△ △ △

初學者に古彩本を寫さしむるは何の効かあるべき、宛もこれ文字を書き得ざる小兒に手紙を認めよといふに同じ、如何に粗惡なりとも先づ自ら畫くとを學ばしめよ(ロセツチの畫家訓練法)

家訓練法)

* * * * *

畫に志して得たる顯

著の利益(腦病の全

治)

予が半生の經歷は涙の歴史である終に十餘年腦病の人となつた醫治も受けた參禪もしたが些の効力が無い畫に志してから見るもの皆樂しく從來の

悲觀を脱して極て樂觀の暢氣の性格にいつとも知れず革變した予は同病相憐の情からして世の腦病者に彩畫の郊外寫生を御勸め申す(靜遠投)

め申す(靜遠投)

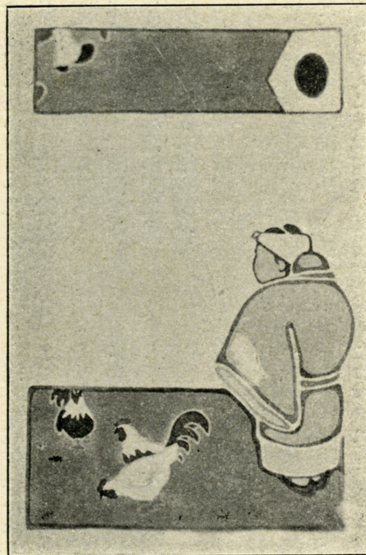
*

*

*

*

*



正 寅 田 相 等 一 和 平